

## ※胸部X線撮影

咳や痰が出る、胸が痛い、息苦しいなどの呼吸器症状がある時に必ず行なわれる検査で、一般診療や健康診断などでも実施される単純撮影のことです。

胸部X線撮影は、X線検査の中で最も簡易な検査方法ですが、胸部の病気について、多くの情報を得ることができますので、幅広く実施されます。

目的によって、立位での正面像と側面像、ときには側臥位等を撮影します。

撮影の際は息をしっかりと止めないと写真がぶれるので注意が必要です。

正面像では、基本的に胸側を撮影台につけ、背中側からX線を照射します。

側面像は、横を向いて同じように撮ります。

側面像では、肺が心臓や横隔膜、肋骨などと重なって、正面像では判定困難な変化を見つけることができます。

側臥位像は、胸水が疑われる際に行ない、胸水のたまり具合がよく分かりません。

### 1. 胸部X線撮影で分かるもの

胸部X線撮影は、肺がん、肺結核、肺炎などの場合、異常部位が白い影として映ります。

気胸、肺気腫などは病気のあるところの空気が多くなるので、黒く映ります。

気管支拡張症や胸水なども指摘されます。

また、肺と一緒に心臓や大血管も映るので、心臓の病気が見つかるきっかけにもなります。

### 2. 異常があった場合

胸部単純X線撮影で異常があった場合、胸部CT検査、喀痰検査、気管支内視鏡検査、腫瘍マーカー等の精密検査が追加されます。

### 3. 異常な場合に疑われる病気

- 肺がん、肺結核、肺炎、気管支炎、肺気腫、気胸、胸膜炎、胸水など
- 心肥大、心拡大、胸部大動脈瘤など

